

商品市況展望

平成 25 年 8 月 4 日記

先週号に続き、相場の基本のお勉強だ。

先週号で“100 万円の資金で金先物をやる場合のストップロス は 5% = 1 枚で 50 円が 1 回のトレードごとのリスク配分”としたわけだが、では 200 万円なら 100 円なのか、300 万円なら 150 円なのか？と問われれば、そのとおりである。

とにかく 1 回のトレードでの損失を 5% に押さえれば、成功の確率は上がるだろうと考えているわけだ。(本当は 3% くらいが良いと思っているが)

ただし 200 万円で 2 枚、300 万円で 3 枚と建玉した場合には、やはりストップロスは 50 円下のままである。

だから 300 万円の投下資金ならば、1 枚で 150 円のストップロスを置いて 300 円超の利益を狙いに仕掛けるか、あるいは 50 円下で切るというなら (50 円も下がらないと考えているなら) 1 枚ではなく 3 枚の建玉で利益を狙うべきである。レートは小さ過ぎても儲からん。

だが世の中には、絶対に損切りが嫌。追証が掛かるまでは損切りなんて考えないし、300 円引かされようが、500 円引かされようが、我慢していれば買い値まで戻るはず。戻ったら手仕舞いする、という考え方の人も多い。

100 万円で金 1 枚の建て玉での追証は、現在の維持証拠金は 138,000 円なので、その残額を割り込まない限りは掛からない。つまりは 862,000 円のマイナスまで = 862 円幅の下落までは耐えられるわけで、4,000 円の買いなら 3,138 円までは追証は掛からない。

だから 3,500 円まで下げようが、じっと我慢をしていて 4,200 円まで上がるのを待ち、そこで悠々と利食いをすれば 20 万円の儲けじゃないか。きっとそうなる、と思う人は居る。

もちろんその方法を、全面的に否定するわけじゃない。極端な話を言えば、1 年後の納会日まで全然買い値を超えなかったら、4,000 円ならば 300 万円の追加資金を足して、400 万円で地金を引いてしまえば、孫子の代まで持っている事も可能ではある。資金がそれだけあればだが。

もっともそれはもう、すでに先物取引ではないし、トレードでもない。500 円引かされようが、1,000 円引かされようが損切りをしないというのであれば、そりゃ全く違ったルールで、全く違ったゲームをしているという事になる。株の投資家 (投機家ではない) の考え方に近いのかもしれない。

だが金には株のような配当もなければ、増資もないわけで、利息もつくものではない。儲けは値幅だけであり、それは投機なのだから、当方はこのような考え方には与しない。

とにかく今回は、資金量によってストップロスの値幅は変わるという話だ。次回は初心者のために、ストップロス注文の出し方をレクチャーしてみる。

〔貴金属〕

○東京金日足

…削除済み…

今週の金の値動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
7月29日	¥4,183	-73	¥4,182	-63
7月30日	¥4,204	21	¥4,196	14
7月31日	¥4,202	-2	¥4,201	5
8月1日	¥4,183	-19	¥4,187	-14
8月2日	¥4,130	-53	¥4,122	-65

金相場は、先週号においては『4,329円で戻り高値を確認した可能性が大であろう。今後はまた戻り売りで、3度目のクラッシュか、少なくとも2番底を探りにゆく展開になるのではないかと見る』とコメントした。

今週の相場展開は、4,200円どころを挟んだもみ合いから週末は下落。米雇用統計発表前に株式市場が買われたことから逆に金は売られ、4,111円の安値まで記録した。

これで戻り天井を打っただろうとした4,329円(7/25)→4,122円(8/2)までの下落は207円幅となり、3,750円(6/28)→4,329円(7/25)まで579円幅の上昇分の36%を消した事となる。

このまま夜間取引でも下落が続くかと思われた相場であるが、21時に4,120円の安値を付けたところからは急騰を開始し、21時半頃には4,200円台まで上昇。80円を一気に上げ、その後は30円ほど緩んでの終了である。

一時的に急騰した要因は、…中略…

さてその雇用統計の内容だが、…中略…

そういう意味では、まだ「4,329円は戻り天井であろう」という相場観には変化無しだ。抜けた場合は5月の三尊天井のネックラインである4,430円～4,500円どころまでの上昇も無しとはしないが、上げて4,200円ちょいの価格で止まっているようなら、いずれまた大きな下落が来るだろうとの判断である。

そしてその下値目標値は、まずは4,000円割れ、次に前回安値である3,750円前後への下落、更にひどければ3,300円～3,500円辺りまでの下落は考えられるとの見方である。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	¥4,224	8月29日	¥5,873	2月7日	¥3,765	6月28日	¥4,130
2013年10月	¥4,404	10月29日	¥5,077	2月7日	¥3,761	6月28日	¥4,130
2013年12月	¥4,519	12月25日	¥5,081	2月7日	¥3,745	6月28日	¥4,122
2014年2月	¥4,759	2月26日	¥4,979	3月21日	¥3,751	6月28日	¥4,127
2014年4月	¥4,585	4月25日	¥4,760	5月10日	¥3,749	6月28日	¥4,124
2014年6月	¥4,031	6月26日	¥4,329	7月25日	¥3,750	6月28日	¥4,122

何となくではあるが、5,000 円台を記録した限月がなくなるまで、つまり年内いっぱいはいり売りが主力の相場となりそうな気はしている。あくまでも単なるカンであるが。

○NY 金日足

…削除済み…

8/2 の NY 市場では、前日比 0.4 ドル安の 1310.6 ドルでの終了。安値は 1283.0 ドルまであったが、米雇用統計を受けた 21 時半頃から急騰を開始。1317.6 ドルまで上げ、その後は若干緩んで終了である。

なお 1280 ドル台は東京市場の後場にも記録しており、いよいよガラが来たかと思わせ、また 1300 ドル台に戻したわけである。

ただし当方としては、現状では先週号でコメントした通り「**戻り高値は 1348.7 ドル (7/23)**」で打っているとの見方である。抜けたら間違いだったと踏むしかないが、一時的にしる高値から 65.7 ドルも下げたわけで、更に相場は下に行くのではないかと考えている。

なお CFTC 発表の 7/30 現在のファンドのポジションは、…中略…

また 8/2 現在での ETF 残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、4,329 円で戻り天井を打っているとの相場観に変化無し。戻り売り継続の相場であり、少なくとも 2 番底を取りに行く相場であろうと判断している。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
7月29日	¥4,521	-79	¥4,525	-88
7月30日	¥4,569	48	¥4,574	49
7月31日	¥4,554	-15	¥4,558	-16
8月1日	¥4,569	15	¥4,593	35
8月2日	¥4,573	4	¥4,592	-1

プラチナ相場は、先週号においては『4,743円で戻り高値を確認した可能性が大であろう。今後はまた戻り売りで、2番底を探りにゆく展開になると見る』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けには4,480円(7/29)までの安値を記録するものの、その後は反発～もみ合いへ。週末の夜間取引でも4,600円台乗せと堅調であり、また若干ゴールドよりも強い状況である。

4,743円(7/25)→4,480円(7/29)まで263円幅下げた相場は、チャートではまた戻して一目均衡表の雲の上に出て来ている。

まだ上に抜けているわけではないので、4,743円は戻り天井との考え方に変化はないが、下落のためには2番天井を付け、それから4,480円のネックラインを割り込んでからが本格的な下げの到来か。現状では、買いも売りもしづらいところかもしれない。

もちろんWトップ完成後は、次の下値目標の4,274円を目指すと考えている。…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	¥3,860	8月29日	¥5,274	2月7日	¥3,807	8月31日	¥4,573
2013年10月	¥3,998	10月29日	¥5,288	2月8日	¥3,933	10月30日	¥4,573
2013年12月	¥4,249	12月25日	¥5,300	2月8日	¥4,122	6月27日	¥4,585
2014年2月	¥4,831	2月26日	¥5,052	3月12日	¥4,125	6月27日	¥4,591
2014年4月	¥4,622	4月25日	¥4,999	5月16日	¥4,109	6月27日	¥4,587
2014年6月	¥4,284	6月26日	¥4,743	7月25日	¥4,125	6月27日	¥4,592

○プラチナー金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,592円(プラチナ) - 4,122円(金) = 470円。チャートは引け値ベースまで入っていないが、サヤの拡大はこのところの最大幅を更新である。

…中略…

結論として当方の相場観は、4,743円で戻り天井を確認した相場であるとの判断であるが、金との価格差は更に広がっており、金よりも確りした傾向の相場は続くのだろう。戻り売り方針だが、その点には注意が必要か。

〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	9月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
7月29日	¥25,000	-1450	¥25,260	-320
7月30日	¥25,000	0	¥25,440	180
7月31日	¥26,320	1320	¥25,420	-20
8月1日	¥26,310	-10	¥25,450	30
8月2日	¥25,500	-810	¥25,330	-120

まずはコーンから…

先週号においては『一段安は利食いであろう。戻るとすればファンドのショートカバーだけであるが、それで戻りが出たらまた売れば良い。そういうニヒルな相場であらう』とコメントした。

今週の相場展開は、25,000円台前半でのみみ合い。安値は**25,140円(8/2)**であり、貴金属が乱高下したその後の夜間取引では、**25,050円**とまた**安値更新**となっている。

年初来安値の更新中の相場であり、戻りらしい戻りはまだ無い状況である。現状では豊作見込みに変化はなく、今年の収穫後は大幅な需給緩和となるのは確実。これは春からずっと言っている事であり、**昨年**のホット&ドライの相場とは**真逆の展開**となっているわけだ。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおりである。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年9月	¥28,500	8月16日	¥33,570	6月3日	¥24,900	7月31日	¥25,500
2013年11月	¥25,600	10月16日	¥28,910	5月30日	¥24,420	11月14日	¥24,680
2014年1月	¥25,700	12月17日	¥28,600	6月3日	¥24,900	7月30日	¥25,200
2014年3月	¥27,290	2月18日	¥28,750	6月3日	¥25,030	7月29日	¥25,400
2014年5月	¥26,550	4月17日	¥28,970	6月3日	¥25,120	7月29日	¥25,320
2014年7月	¥26,600	6月17日	¥28,410	6月21日	¥25,140	8月2日	¥25,330

ほぼ全限、今週も一代安値の更新となっている。

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末**8/2**のシカゴ市場は、**9月限**で前日比**11.50セント**安の**476.00セント**。12月限では**3.25セント**安の**463.75セント**。

800セントまで駆け上がった7月限が納会し、9月限は7月限にサヤ寄せするよりも、新穀の12月限にサヤ寄せするように下落。この流れはまだ続いている。そりゃそうだ。もうすぐ収穫が始まるわけで、どうせ買うなら安い新穀の方が良いに決まっている。

CFTC 発表の 7/30 現在のファンドのポジションは、…中略…

それも現状では、この売りはロングの手仕舞いよりは、ショートが増加という図式である。つまりは投げずに、倍を売るという作戦でファンドは対処しているわけで、**戻るとすればこのショートカバーでの急反騰であろう。**

だがショートカバーで急反騰した後は、やっぱりまた今度はロングの手仕舞いを敢行しなければならぬわけであり、そこがまた売り場となるだろう。

相場では「水に落ちた犬は叩け」という非人情的な作戦が功を奏するものだ。良い悪いではなく、これはゼロサムゲームの鉄則ゆえ、当方としてはこんなにわかりやすい相場はないと思っている。

結論として当方の相場観は、戻るとすればシカゴ市場でのファンドのショートカバーのみ。その戻りは絶好の売り場になるだろう。戻らぬ場合は、下に下にの大名行列だろうし、ともかく買う相場ではないだろう。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
7月29日	¥48,920	-2320	¥51,760	-110
7月30日	¥49,000	80	¥52,190	430
7月31日	¥48,130	-870	¥51,490	-700
8月1日	¥47,300	-830	¥51,760	270
8月2日	¥50,000	2700	¥51,880	120

続いて一般大豆です…

先週号においては『予想通りに崩れて来た相場であり、今年の高値は出尽くしただろう。今後も戻り売り継続の相場であり、下値のめどはまだ判断できない弱い相場であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、52,000円を挟んだ値位置まで水準を切り下げ、安値では**51,070円(8/1)**まで記録。

56,340円(7/10) → 51,070円(8/1)までの下落幅は**5,270円**幅となり、**10%近く**下落した事となる。だが年初来の安値は**48,450円(1/9)**、その前に**49,850円(5/2)**があり、コーンが年初来安値を更新中の中、まだ大豆はそこまでは行っていない。

だが週末の夜間取引でも、安値では51,250円まで記録しており、週末の価格からはまた下落しているわけであり、いずれはこれ以下の価格まで水準を切り下げるだろう。遅かれ早かれ、そうなると考えている。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	¥48,020	8月16日	¥64,900	5月16日	¥47,290	8月1日	¥50,000
2013年10月	¥47,220	10月16日	¥68,750	7月10日	¥46,920	10月16日	¥61,920
2013年12月	¥50,680	12月17日	¥58,000	7月12日	¥48,450	1月9日	¥53,050
2014年2月	¥53,000	2月18日	¥56,000	7月17日	¥50,150	4月4日	¥52,150
2014年4月	¥50,910	4月17日	¥56,800	7月10日	¥49,850	5月2日	¥52,900
2014年6月	¥51,760	6月17日	¥56,340	7月10日	¥51,070	8月1日	¥51,800

旧穀の最終限月である10月限のみまだ高いが、これも高値からは7,000円下げている。ひどいのは当限の8月であり、8/1には47,290円とこの期に及んで一代安値を更新。

8/15には納会するわけで、場違い筋がすべて整理した日だったのでここまでの安値となり、その後は5万円まで戻しているが、とにかく一時は先物よりも4,000円割安となったわけだ。いずれ10月モノも天狗の鼻を折られるかも。

○シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末8/2のシカゴ市場は、8月限で前日比**26.75セント**安の**1331.00セント**。11月限では**11.00セント**安の**1181.50セント**。

16ドル台まで上昇していた7月限が納会し、14ドル台で表示された8月限は、一度は15ドル台まで上がったものの、今週の暴落で13ドル台へ。安値は1328.75セントまで記録である。

だが新穀は13ドル台どころか、12ドル台でもなく、11ドル台なのである。…中略…

なおCFTC発表の7/30現在のファンドのポジションは、…中略…

またこのところコメントしているが、「世界需給ではコーン在庫の16%台に対し、大豆は27%台と実は多い」わけである。

これでファンドが買って、相場上昇する事など有り得る？

結論として当方の相場観は、遅かれ早かれ年初来安値を更新して行くだろう。戻り売り一貫の相場であり、ファンドの総投げ確認まで売りであろう。

[ゴム]

○東京ゴム日足

…削除済み…

今週のゴムの値動き

	8月限(当限)	前日比	1月限(先限)	前日比
7月29日	238.5	-7.7	241.8	-9.7
7月30日	239.8	1.3	243.7	1.9
7月31日	239.7	-0.1	240.3	-3.4
8月1日	245.0	5.3	245.8	5.5
8月2日	249.9	4.9	248.1	2.3

先週号においては『(当方のように) 戻り売り相場と見る向きと、押し目買い相場だと見る向きの、綱引き相場が継続中。こういう場合は放れた方向に大きく動きそうだが、さてどちらに放れるか?』とコメントした。

今週の相場展開は、下落に転じた相場が **238.7円 (7/31)** まで記録。しかしその後はまた反発に転じ、週末には高値で **252.0円 (8/2)** まで上昇。

直近の最安値である **225.0円 (6/25)** → **262.0円 (7/19)** までの上げ幅は **37円**。そこから **238.7円** までの下落は **23.3円**。そして **252.0円 (8/2)** までの戻りは **13.3円** である。

ちょっと方向感の掴みづらい相場であるが、結論から先に言えば **262.0円で戻り天井**、**252.0円で2番天井**との判断である。それは **238.7円** を割り込めば決定、と見ている。ただし今の相場観にはあまり固執はしておらず、これが曲がったらまたすぐに訂正する。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	301.0	2月25日	302.1	2月25日	222.6	6月25日	249.9
2013年9月	279.5	3月26日	297.7	5月13日	221.9	6月25日	246.0
2013年10月	253.7	4月24日	299.0	5月13日	222.3	6月25日	244.5
2013年11月	267.7	5月28日	274.8	5月29日	223.9	6月25日	245.0
2013年12月	231.0	6月25日	262.0	7月19日	225.5	6月25日	247.2
2014年1月	257.0	7月26日	258.9	7月26日	238.7	7月31日	248.1

当先のサヤは、8月限 249.9円～1月限 248.1円と **1.8円の逆ザヤ**。サヤは、中物の安いおかめザヤに変化である。相場格言では“おかめに売りなし”というものの、このサヤが定着する材料は現状では見当たらない。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、7/10 現在で 301トン減の11,284トン。7旬連続の減少であるが、少ないわけではない。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、1日から反騰して18,000元台を回復。上昇要因は中国の経済指標が良かったからというものだが、一体日本人でこの**中国の経済指標の発表を間に受ける人が居るだろうか？** そういう事だ。

結論として当方の相場観は、ストップロスを252.0円、258.9円、262.0円に置きながらの戻り売り方針。238.7円を割り込めば、売り方の勝ちだと考えている。

〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

まずは原油から…

先週においては『結果的に 65,000 円台で目先天井を付けてしまったか。NY 原油の 100 ドル前後までの押しは既定路線に思えるため、東京原油もその時点までは調整安を先にする可能性が高いだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、NY 原油は 102.67 ドル (7/30) まで下落の後、FOMC 後に急騰。一気に 107 ドル台後半まで急騰した。週末 8/2 は、雇用統計発表後には 108.82 ドルまで駆け上がった後に急反落して 106.94 ドルまで下落して終了。かなりの波乱の週であった。

109.32 ドル (7/19) →102.67 ドル (7/30) まで 6.65 ドル下げた相場は、また一気に 6.15 ドル上げて反落である。

チャートでは、相対力指数 70 ポイント超の青天井相場を演じた後、50 ポイントジャストまでの押しを入れて、再度の 2 番天井形成に向かっている場面に見える。週末の高値の 108.82 ドルが 2 番天井だったかどうかは、もう数日の動きを見ないと判断できないが、もしもそうなって再度 102.67 ドルを割り込めば、W トップの天井完成だろう。

待つは仁という相場展開かもしれない。

なお週末のロンドンプレントは…中略…

また 7/30 現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

今週の東京原油の動き

	7 月限(当限)	前日比	12 月限(先限)	前日比
7 月 29 日	¥64,960	-80	¥62,180	-880
7 月 30 日	¥65,140	180	¥62,710	530
7 月 31 日	¥64,950	-190	¥62,080	-630
	8 月限(当限)	前日比	1 月限(先限)	前日比
8 月 1 日	¥64,800	1150	¥62,930	
8 月 2 日	¥66,600	1800	¥64,480	1550

東京原油も、65,220 円 (7/19) →62,020 円 (7/31) まで 3,200 円幅の下落を演じた後、月明けから急反騰である。

週末には 64,580 円 (8/2) までの高値を記録 (2,560 円の反騰) し、…中略…

先週号においては「夜間取引の安値である 62,000 円どころで止まれば良し。止まって戻れば、63,000 円台の半ば～64,000 円台は売り。止まらぬ場合は 6 万円割れまで下がるのが先、という事になるだろう」とコメントしたが、ズバリ 62,020 円で止まり、64,000 円台へ戻り、また下がった格好である。

ほぼチャート分析どおりに動いたわけであり、的確な判断だったと言えるだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年7月	¥62,910	2月1日	¥66,460	2月13日	¥57,780	4月18日	¥64,950
2013年8月	¥60,560	3月1日	¥66,480	7月19日	¥57,360	4月16日	¥66,600
2013年9月	¥62,370	4月1日	¥66,180	7月19日	¥57,370	4月18日	¥66,030
2013年10月	¥59,500	5月1日	¥65,840	7月19日	¥57,510	5月2日	¥65,560
2013年11月	¥60,370	6月3日	¥65,530	7月19日	¥58,040	6月14日	¥65,160
2013年12月	¥60,580	7月1日	¥65,220	7月19日	¥60,210	7月1日	¥64,800
2014年1月	¥62,420	8月1日	¥64,580	8月2日	¥62,280	8月1日	¥64,480

結論として当方の相場観は、NY原油はWトップの完成を待っての売りであろう。東京原油は三尊天井の形成を確認して、売り方針が良いだろう。当分の間、値幅は大きいと想定される。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

今週のガソリンの値動き

	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
7月29日	¥77,440	-590	¥73,460	-670
7月30日	¥77,930	490	¥74,000	540
7月31日	¥77,110	-820	¥73,090	-910
8月1日	¥78,250	1140	¥74,160	1070
8月2日	¥79,620	1370	¥75,570	1410

続いてガソリンです…

先週号においては『チャートはWトップの形成から目先の天井打ちを示唆。どこまで下がるかは誰にも判らないのだから、買い玉は一度手仕舞いするか、両建てでの対処が良いだろう。しかし基本的には買い相場だと考えているため、底入れ確認を待っての再度の買い方針である』とコメントした。

今週の相場展開は、72,610円(8/1)まで下落の後、週末に掛けては急反騰。75,800円(8/2)まで3,190円の急騰を見せ、その後の夜間取引では74,710円まで一時下落し、小戻ししての終了である。

76,940円(7/19)→72,610円(8/1)まで4,330円幅下げた相場は、3,190円の急騰で米雇用統計の発表を迎えた。

雇用統計の内容は事前予想よりも悪かったわけだが、…中略…

ともかく先週号では、「相場は76,940円→73,230円まで3,710円の下落中。75,000円割れで投げてしまった当方だが、おかしいと思った時は投げないと、相場はどこまで下がるか判らない。72,000円～73,000円辺りはまた買い場かもしれないが、その時はまたその時の判断である」とコメントした。そうしてズバリ72,000円台から戻した相場だが、高値を抜けなきゃまた下がるのだろう。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年9月	¥78,930	2月26日	¥79,590	3月12日	¥69,050	4月18日	¥79,620
2013年10月	¥74,630	3月26日	¥78,090	7月19日	¥68,150	4月18日	¥77,630
2013年11月	¥72,990	4月26日	¥77,590	7月19日	¥68,030	5月2日	¥76,630
2013年12月	¥71,760	5月27日	¥77,190	7月19日	¥69,450	6月14日	¥76,070
2014年1月	¥70,660	6月26日	¥76,940	7月19日	¥69,520	6月27日	¥75,770
2014年2月	¥75,050	7月26日	¥75,800	8月2日	¥72,610	8月1日	¥75,570

8/2現在の業者間転売価格は、…中略…

7/27現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、72,000円台は買い場であろうとの判断は変わらない。しかし上値は76,940円でつかえている可能性は高く、目先は逆張りのゾーンに入ったのかもしれない。

○東京灯油日足

…削除済み…

今週の灯油の値動き

	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
7月29日	¥75,430	-590	¥76,490	-780
7月30日	¥75,900	470	¥76,950	460
7月31日	¥75,230	-670	¥76,270	-680
8月1日	¥76,320	1090	¥77,560	1290
8月2日	¥77,720	1400	¥79,110	1550

最後に灯油です…

先週号においては『W トップの完成でストップロスに引っかかったため、現在は中立状態である。下値の目処は74,000円台と見るが、底入れの確認を待って、また買い参入が良いだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、75,830円(8/1)まで下落の後、週末に掛けては急騰。一気に79,300円まで3,470円幅の急反騰となった。

79,610円(7/19)→75,830円(8/1)まで3,780円下げた相場が、一気にまた高値圏まで戻した。ただしその後の夜間取引では、一時79,170円→78,170円まで1,000円の下落を見せるなど乱高下しており、8万円台に乗せてゆくような動きとはなっていない。

先週号でコメントした「チャートでは77,080円→79,610円までの上げ幅2,530円の倍返しの下げなら、ズバリ74,550円が目標値。それは一目均衡表の雲にくつつく辺りであり、まずは順当なところはそれだろう」という価格までも届かずに急騰した相場は、まだ狙いの買いも成立しておらず、一方でまだ上値も厳しそうな感じもあるわけで、相場は逆張りのパターンに移行したのかもしれない。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年9月	¥76,550	2月26日	¥78,380	7月19日	¥68,340	4月18日	¥77,720
2013年10月	¥74,090	3月26日	¥78,510	7月19日	¥69,000	4月18日	¥78,250
2013年11月	¥75,350	4月26日	¥79,010	7月19日	¥69,850	5月2日	¥78,770
2013年12月	¥74,610	5月27日	¥79,550	7月19日	¥71,580	6月14日	¥79,300
2014年1月	¥73,900	6月26日	¥79,610	7月19日	¥72,650	6月27日	¥79,320
2014年2月	¥78,000	7月26日	¥79,300	8月2日	¥75,830	8月1日	¥79,110

8/2現在の業者間転売価格は、…中略…

7/27現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、大勢押し目買いの相場ではあるが、8万円の大台突破はまだ厳しそうだし、下値も76,000円以下は長く続きそうもない。目先は逆張りの展開に移行したのかもしれない。

[為替・株式]

○ドル/円相場日足

…削除済み…

FOMC 前に若干円高が進んで 97.58 円 (7/31) まで記録した後、8/1 は一気に 99 円台までの円安へ。そして雇用統計が発表された週末の NY 市場では、99.91 円の安値もあったものの、98 円台後半へまた若干円高に。

大きな流れでは円安相場に変化はないだろうが、相変わらず 93 円台までの調整局面はあっても不思議ではないチャートであり、正直言えばちょっと決め手に欠ける展開か。

なお来週の主な予定は、

…中略…

○日経 225 日足

…削除済み…

FOMC を前にした円高で調整局面入りした相場だったが、すぐに金融緩和縮小がなさそうだという事で下げ止まり、週末は雇用統計を先取りしたのか急騰。

ただしその肝心の雇用統計はあまり良い内容ではなく、また若干円高に振れた事もあってシカゴ日経 225 先物は 130 円ほどの下落。

…中略…

○NY ダウ日足

…削除済み…

一説には、FOMC で金融緩和の縮小が示唆されれば NY ダウは急落するかも、という見方もあったわけだが、結果は 1 日に NY ダウは新高値更新。

そして雇用統計の発表があった週末 2 日も、ダウは 30 ドル高の高値更新で終わっている。VIX 指数は新安値の更新中であり、今のところ米国株式市場は絶好調の雰囲気。

当方はへそ曲がりなもので、どうしてもこうなると売り狙いで考えてしまうし、東京株式市場はこれに比べれば安いので買い狙いで考えてしまう。さてどうなるか？

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com